

2) ヒアリング

今回、お話を伺う4人の方を会長から紹介

田中 天顕氏（プロジェクト花玉）

佐々木 将芳氏（NPO法人 MOVE 理事、日本福祉大学非常勤講師）

浅野 總一郎氏（一宮市ボランティアグループリーダーの会会長）

諫山 和敏氏（NPO法人 一宮まごころ代表理事）

それぞれの団体の方に、NPOにおける現状の活動、課題、展望等についてお話をいただきました。

（1人10分程度）

（田中氏）

- ・七夕かざりを作っていて、アートでまちづくりをめざしています。おとし結成し、フェルトの玉を本町商店街などで市民の方に丸めていただき、3,000~4,000個丸めて、七夕かざりとしました。商店街のみなさんとジョイントしながら、地元の人達と一緒にと思っていますが、いまひとつ人とのつながりに広がりがないのが課題です。展望としては、みんなでひとつのものを作っていくということをコンセプトに、もっと人と人のつながりを広げていきたい。

（佐々木氏）

- ・MOVEは、障害を持つ子どもたちの支援を行うということで、立ち上げた団体で、一宮市内で活動しています。（以下、別紙資料に基づき説明）
- ・一宮市としては、障害を持つ子どもたちの教育機関は、比較的充実していると思います。事業は、公費をいただきながら、学童保育事業、介護給付事業（児童デイサービス事業、居宅介護事業）地域生活支援事業（移動支援事業、日中一時支援事業）を行っています。
- ・設立のきっかけは、規制緩和により、株式会社、有限会社、NPO法人が福祉施策サービスを展開できるようになったことです。
- ・活動内容は、法人としては、年間1000万円弱の規模。経営の実際は、赤字の状態、一番大きな割合を占める職員の給料を十分払える状況にはありません。
- ・今後の展望としては、障害を持つ、持たないにかかわらず、人との出会いを子ども達に作ってあげたいと考えています。

（浅野氏）

- ・VGLニュースに基づき、説明。VGL（一宮市ボランティアグループリーダーの会）を平成14年3月に、市民活動の活性化を目的に、中間支援組織として、立ち上げました。
- ・社会福祉協議会のデータによると、立ち上げた当時、一宮市全体で、約7,000人の登録ボランティアがいました。その後、平成16年7月に市民活動支援センターができて以来、センターの運営をVGLが無償ボランティアで行っています。本年に入り、社会福祉協議会のボランティアセンターで11,000人、市民活動支援センターの登録で、503団体29,000人の方が登録されています。それ以外にも、登録されていない見守りネットなど多数存在します。全国平均と比較しても、一宮市は、全国平均の25%ボリュームアップしており、市民活動が活発になってきたと言われています。
- ・今後も、協働のまちづくりのバックアップをしていきたいと考えています。

(諫山氏)

- ・ まごころは、平成4年6月に、主婦10人で立ち上げた団体です。介護保険が始まる4年前に、任意の団体として、介護のお手伝いをしてきました。
- ・ 介護保険制度導入の際に、事業を継続していくために、法人格を平成11年に取得しました。移動サービス、児童デイサービス、まごころふれあいサロン、ケアマネ事業、ふれあい活動ミニデイサービス、市民事業等を行っています。
- ・ 現状としては、市民事業を行うだけで、年々赤字幅が増えている状況で、それを介護保険事業で穴埋めをしていましたが、市民事業の継続が難しくなっています。一宮市がNPOを支援していただければ、幸いです。